

HONG KONG LINER



短期間で20の生産ラインが立ち上がり、国際的な品質基準を満たすマスクを製造

マスク生産が呼び起こした香港製造業の伝統

政府は2月、香港でのマスク製造に対する助成制度を実施。約4カ月後には月産0枚が4,200万枚に

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって世界中でマスクの需要が急増し、香港でも数カ月前までは世界の多くの国や地域と同様に、COVID-19が突きつける手ごわい問題に立ち向かうための必需品であるマスクの安定供給を求めて人々が声を上げていました。しかし今日、貿易、金融とイノベーションの国際都市である香港は、地元でのマスク製造で成果を上げています。

香港特別行政区政府は2月、防疫抗疫基金の下、香港のマスク生産ラインに財政支援をする「地元でのマスク生産助成計画」を発表しました。申請には有効な商業登記証と会社設立証明書が求められるほか、原材料、生産設備と工場は物理的に香港にあることが必要です。各生産ラインは、ASTM インターナショナルが定める規格「ASTM-F2100レベル1」を満たすマスクを月50万枚以上生産する能力を有する必要

があります。申請が承認された企業には、最初の生産ラインについて最大300万香港ドル、追加1ライン毎に最大200万香港ドルが政府から助成金として支給されます。

6月中旬には、香港企業15社が運営する20の生産ラインが1カ月当たり約4,200万枚の香港製マスクを供給するようになり、うち約3,400万枚が香港政府に、およそ800万枚が香港の消費者市場に振り向けられています。

今回のマスク生産は、香港ではいかに素早く効果的に物事を実現することができるかを如実に示す例となりました。

5ページ最下段の関連記事もご覧ください。



香港製マスク

香港国家安全維持法が施行

香港の繁栄と安定の維持に資する新法。施行後も「一国二制度」から生まれる香港独自の強みは不変



鄭若驊（テレサ・チェン）法務長官（写真・左）、李家超（ジョン・リー）保安長官（右）と共に記者会見に臨む林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官

6月30日、「中華人民共和國香港特別行政区国家安全維持法」（香港国安法）が公布され、即時発効しました。同法は、国家分裂、国家政権転覆、テロ活動、外国あるいは外部の勢力と結託して国家の安全を脅かす行為を犯罪として、その防

止・抑制を図るとともに、香港の繁栄と安定を維持し、香港住民の合法的な権利と利益を保護することを目的としています。

中国の全国人民代表大会（全人代）常務委員会は、香港特別行政区基本法（基本法）第18条に定めるとおり、全人代常務委員会基本法委員会および香港特別行政区政府との協議を経て、6月30日に香港国安法を可決し、基本法の付属文書Ⅲに追加しました。香港国安法は、中華人民共和国憲法、基本法、また「香港特別行政区における国家安全維持の法律制度および執行メカニズムの確立・整備に関する全人代の決定」に従って制定されました。

香港は自由で開かれた社会であり、国際的なビジネスと金融の中心地としての香港の成功は、法の支配、司法の独立、情報と資本の自由な流れ、言論や表現の自由などがあってこそのものであります。そして、これらの基本的価値は香港国安法の下で守られています。「一国二制度」というユニークな仕組みから生まれる香港の制度的な強みと競争力は、全く損なわれることはありません。

香港は「2020年世界競争力年鑑」で第5位

「政府の効率性」、「法律および規制の枠組み」、「為替レートの安定性」の指標では首位を獲得



スイスの国際経営開発研究所（IMD）が6月に発表した「2020年世界競争力年鑑」で、香港は世界第5位にランクインしました。これは、スウェーデン、カナダ、米国、ドイツ、英国といった国を上回る順位です。

総合ランキングでは昨年の第2位から順位を下げたものの、引き続き「政府の効率性」で首位、「ビジネスの効率性」

で2位を保っています。さらに、「法律および規制の枠組み」の指標で2位から1位に、「為替レートの安定性」では19位から1位に上昇しました。

世界的なランキングにおける香港のこのような高い順位は、香港の制度的強み、特に法務および財務における強みを改めて裏付けるものです。

政府は香港の航空ハブ維持のためキャセイに出資

土地基金を通じた出資でキャセイパシフィックを支援。アジア屈指の国際航空ハブとしての地位を守る



キャセイパシフィック航空は、主要な国際航空ハブとしての香港の地位を支える立役者

陳茂波（ポール・チャン）財政長官は6月9日、アジア太平洋地域における主要な国際航空ハブとしての香港の役割と香港経済の長期的な発展を守るため、香港特別行政区政府はキャセイパシフィック航空に出資すると発表しました。

香港政府のキャセイへの出資は約273億香港ドル。およそ195億香港ドルの優先株を引き受け、約78億香港ドルのつなぎ融資枠を設定すると陳長官は説明しました。出資は土地基金を通じて行われ、政府に相応のリターンをもたらすと考えられます。

香港は世界クラスの国際航空ハブです。その広範囲な国際航空ネットワークは、香港を経由する乗客や貨物の流れを円滑にするだけでなく、幅広い経済活動、とりわけ貿易と物流、金融サービス、観光の発展を支えています。

世界の航空産業を取り巻く事業環境が新型コロナウイルス感染症の世界的流行により大打撃を受ける中、キャセイグループも運営面、財政面でかつてない圧力に直面しています。同社は香港の最重要航空会社であり、香港の航空発展の主要な牽引役でもあることから、香港政府は今回の支援を決定しました。

香港出入境管理局のサービスに世界一の評価

旅客への調査で「ベスト・エアポート・イミグレーション・サービス賞」に選出。同賞の受賞は4度目

香港出入境管理局は、航空業界専門の国際的調査会社であるスカイトラックス社が世界の航空旅客について行った調査で、「2020年ベスト・エアポート・イミグレーション・サービス賞」を受賞しました。2015年、2016年、2019年に続き、今回で4度目の受賞となります。

この調査は昨年9月から今年2月にかけて世界の空港550カ所を対象に実施され、100カ国以上の航空旅客からアンケートが集まりました。



香港国際空港で出入境管理局のスタッフは、旅行者にプロフェッショナルで質の高いサービスを提供

株式会社スシローグローバルホールディングス

人気回転寿司チェーンのスシローは、2019年に香港に進出しました。わずか1年足らずの間に4店舗を展開し、日本から直接輸入した新鮮な食材を使いながらも低価格の寿司をお客様に提供しています。

スシロー香港の荒谷和男社長は、「香港は人口が集中し、外食頻度が高く、消費者が高品質の食にお金を惜しみません。このような香港の質の高い消費者基盤が、スシローに巨大な市場機会を提供しています」と話します。また、「香港の低い税率と優れた物流により、食品輸入が非常に容易で、本社から新鮮な食材を迅速に輸入し、日本の本場

の味を維持することができます」と同氏は付け加えます。

スシローはこの勢いを維持して、強力な寿司ブランドを市場で確立し、香港で着実に成長したいと考えていま

す。今後5年間で年4～6店舗ペースで香港に出店をすることを目標にしています。



スシロー香港社長荒谷和男氏

香港の COVID-19 感染予防・拡大防止対策

「抑制と緩和」戦略で状況に応じた迅速な対応。香港国際空港での乗り継ぎは6月1日から段階的に再開



感染拡大防止の為、ソーシャルディスタンスを推奨

定期的に会見が開かれ、COVID-19の感染者数や関連する新たな措置などの最新状況をメディアと市民に伝達

香港特別行政区政府は、新型コロナウイルスが外部から香港に持ち込まれ、地域社会で広がる可能性を低減するため、一連の感染予防・拡大防止対策を打ち出しています。7月31日時点において、香港で確認された新型コロナウイルスの累計症例数は3,272件でした。

政府は最新の公衆衛生リスク評価に応じて迅速に防疫対策の調整を行うため、「抑制と緩和」戦略を採用しています。これらの対策には、公共施設の閉鎖、集会の人数制限やその他のソーシャルディスタンス措置が含まれます。

3月25日以降、停止されていた香港国際空港での乗り継ぎ業務は6月1日から段階的に再開されましたが、海外から

到着する非香港居住者の香港への入境禁止措置は継続中です。

新型コロナウイルス感染予防策の1つとして、現在香港に入国するすべての旅行者は香港住民、非香港居住者ともに、関連規則により免除が定められている人を除いて14日間の検疫を受けることが義務付けられています。

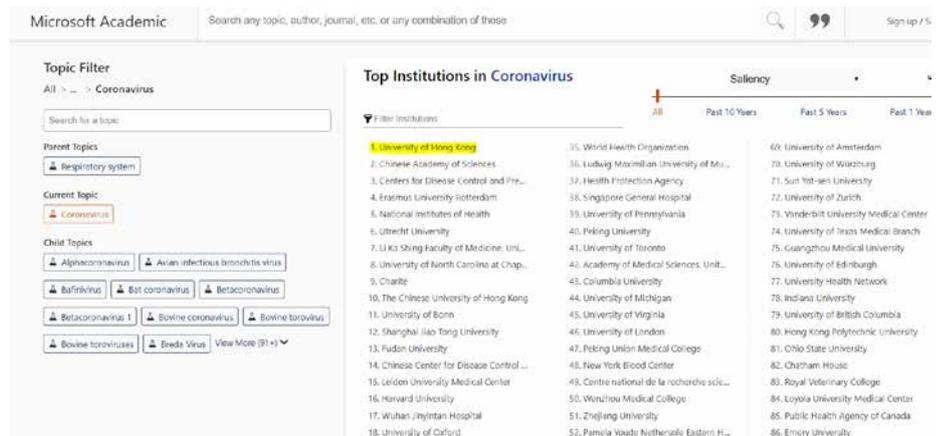
香港と中国本土、マカオ、台湾との間において、不可欠なビジネス・貿易活動の円滑化を図るべく、香港特別行政区政府は対象となる企業や個人について強制検疫を免除するためのさまざまな仕組みを開始しています。

詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください。
www.coronavirus.gov.hk

香港大学は COVID-19 研究で世界をリード

専門検索エンジンの集計によると論文発表数や被引用性などで首位。有力研究クラスターとしての認知も

研究出版物の検索エンジン、マイクロソフトアカデミックによると、香港大学は新型コロナウイルス研究で世界をリードしています。世界100大学のうち、香港大学は顕著性、被引用数、論文発表数、H指数（論文の被引用数に基づく研究者の評価指標）で1位でした。同大学はまた、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションにより「近年、コロナウイルス研究の分野で世界的な発展を遂げた有力な研究クラスター」の1つに挙げられています。



マイクロソフトアカデミックによると、香港大学は長年にわたりコロナウイルス研究の先頭に立っている

香港永住者への現金支給、登録受付が開始

18歳以上の全市民に1人当たり1万香港ドルを支給。6月21日から登録が始まり、7月から給付も開始



2020～21年度政府予算案で発表された通り、パンデミックによるこの困難な時期に地元の消費を促し、市民の経済的負担を軽減するため、18歳以上の香港永住者を対象に1人当たり1万香港ドルの現金支給が実施されています。給付金はオンライン登録完了後、約1週間で指定の銀行口座に振り込まれます。登録期間は2020年6月21日から2021年12月31日までです。

詳しくは下記サイトをご覧ください。

www.cashpayout.gov.hk

「雇用支援計画」で従業員の雇用継続を促進

6カ月間の給与補助で雇用を支援。制度の運用には透明性を確保し、市民によるモニタリングを可能に

香港特別行政区政府は、防疫抗疫基金の下で「雇用支援計画」を立ち上げました。雇用主向けの財政支援で、このままでは余剰人員となる見込みの従業員の雇用継続を促すことが狙いです。対象となる雇用主は6カ月分の給与支払い補助を受けることができますが、制度の利用にあたっては以下を保証する必要があります。

- (1) 補助金の受領期間中に従業員の解雇を行わない
- (2) 該当補助金全額を従業員への給与支払いに充当する

政府は補助金を受領した雇用主の一覧、補助金の恩恵を受けた従業員の総数や補助金の額を「雇用支援計画」ウェブサイト (www.ess.gov.hk) 上で公表するなど、透明性を持って制度を運用し、関係する従業員と社会によるモニタリングを可能にしています。



すべての香港市民に繰り返し使えるマスクを配布

高機能な「Cuマスク+™」に加え、香港製の高品質使い捨てマスクも全住所に10枚ずつ無料配布



「Cuマスク+™」はマスクの国際規格「ASTM-F2100レベル1」を満たしており、60回まで洗って繰り返し使用できる。写真・左から大人用、子供用、幼児用

香港特別行政区政府は、繰り返し使えるマスクを全市民に無料で配布しています。6層構造で人間工学に基づく特徴を備えたこの「Cuマスク+™」は、香港繊維アパレル研究開発センターによって開発されたもので、2つの層には銅が含まれていて細菌や一般的なウイルス、その他の有害物質を抑制することができます。また、最大60回まで洗って繰り返し使うことが可能です。有効な香港IDカードを所持しているすべての人が、このマスクを入手できます。

これとは別に、6月30日から政府は郵便局を通じて、約288万カ所に上る香港のすべての住居用住所に使い捨てマスクを無料で配布。香港製の大人用使い捨てマスク10枚入パックが各世帯に送付されました。



香港IDカード保持者は全員「Cuマスク+™」の入手が可能

オンラインセミナー「アジア金融ハブ都市の未来」

香港金融管理局総裁がスピーカーとして参加。コロナ後に向け、デジタル技術などでの都市間協力を提言

7月27日にオンラインセミナー「アジア金融ハブ都市の未来」が開催され、香港金融管理局の余偉文（エディー・ユー）総裁、日本から金融庁の氷見野良三長官をはじめとする金融分野の専門家が参加。ポストコロナ時代における金融ハブ都市の在り方について議論しました。



オンラインセミナーで講演する香港金融管理局の余偉文（エディー・ユー）総裁

香港経済貿易代表部の協賛の下、エコノミスト・コーポレート・ネットワークの主催で行われたこのセミナーには、前述の2名に加えて大和総研の中曽宏理事長、野村證券の飯山俊康代表取締役副社長、金融庁の森田宗男金融国際審議官、エコノミスト・コーポレート・ネットワークの大久保琢史北アジア担当ディレクターがスピーカーとして参加しました。

セミナーでスピーカー陣は、多くの方がリモートワークやオンラインによる交流を余儀なくされるなど、新型コロナウイルス感染症が劇的な変化をもたらした一方、規制システムなどの仕組みやインフラ、国際金融ハブの人材は、コロナ後の世界においても依然として重要な役割を担うであろうとの意見でおおむね一致しました。

余総裁は今後、デジタル技術の活用や異なる金融市場の接続性といった分野で、金融ハブ都市は協力して取り組むことができると考えており、「この先はデジタル技術がカギとなるだろう。こうした技術を有効活用するための法規制制度を支える人材の育成が非常に大切になる」と述べています。

「香港で学ぶ・働く」セミナーをウェブ上で開催

多様な入境制度で優秀な人材を積極誘致。香港での学びや仕事に興味を持つ日本の大学生に向けPR

香港は常に企業の進出を歓迎する街であり、貴重なスキルや知識、経験を持つ世界中の人々が香港で働き、暮らし、投資しやすくするために、さまざまな制度を設けています。

香港経済貿易代表部は7月17日、「香港で学ぶ・働く～さまざまな入境制度のご紹介～」と題したオンラインセミナーを開催。卒業後に香港で学ぶ、あるいは働くことに興味を持つ日本の大学生を対象にしたこのセミナーでは、まず香港経済貿易代表部の范國訊（アンドリュー・ファン）次席代表から、代表部の仕事や香港と日本の関係についての簡単な紹介がありました。

続いて、香港出入境管理局の劉永基（スティーブン・ラウ） 助理首席入境事務主任が、優秀人材入境計画、技術人材入境計画、一般就業政策など、香港のさまざまな入境制度の紹介を行いました。



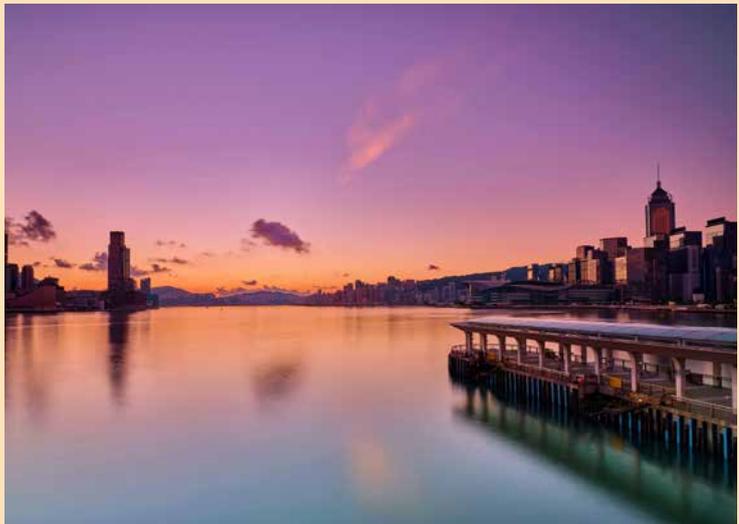
セミナー冒頭、香港経済貿易代表部の范國訊（アンドリュー・ファン）次席代表が香港の基本情報を簡単に紹介

香港のさまざまな入境制度について出入境管理局による説明が行われた

SPOTLIGHT HONG KONG

夏の香港

今年の夏、香港はこの時期らしい暑さと、澄みった青空が広がる快晴の天気にも恵まれる日が多くありました。政府のカメラマンがとらえた香港の美しい夏景色をご覧ください。



レゴブロック作品展 「ブリック・アドベンチャー」

6月3日から28日まで香港・新界の屯門市広場（TMTプラザ）で「ブリック・アドベンチャー」が開かれ、合計28万個を超えるレゴブロックで作られた素晴らしい作品100点が展示されました。

3つの歴史的建造物を古蹟に指定

このページで紹介する3つの歴史的建造物は今年5月、古物古蹟条例の下で古蹟に指定されました。現在、香港には計126の指定古蹟があります。

薄扶林貯水池 (Pok Fu Lam Reservoir) の石橋

薄扶林(ポクフラム)貯水池は、香港で初めて建設された公共貯水池です。着工は1860年で、1863年末に水の供給を開始しました。この花崗岩でできた橋は同貯水池に現存する最古の歴史的建造物の1つであり、優美なアーチ状の開口部を備えています。



東華義莊 (Tung Wah Coffin Home)

東華義莊は1899年に設立され、最初の建物群は1900年に完成しました。今なお、棺と遺骸の保管場所という当初の目的のために使用されています。建物の建設と改修がさまざまな時代に行われたため、伝統的な中国建築から近代西洋風、両者の折衷式まで多彩な様式が見られます。



油麻地の天后廟 (Tin Hau Temple) とその隣接建物群

油麻地の天后廟(ティンハウ廟)と廟に隣接する建物群は、礼拝や仲裁、そして学問の場として複数の機能を持ち、九龍の歴史において重要な役割を果たしてきました。天后廟は1878年に完成し、隣接する4つの建物は1894年から1920年にかけて段階的に建設されました。

香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 (香港経済貿易代表部)

〒102-0075 東京都千代田区三番町30番1号 香港経済貿易代表部ビル

Tel : 03-3556-8980 Fax : 03-3556-8970 (代表部)

Tel : 03-3556-8961 Fax : 03-3556-8960 (投資推進室)

E-mail : tokyo_enquiry@hketoty.gov.hk

www.facebook.com/hketo.tokyo/

www.instagram.com/hketo.tokyo/

www.twitter.com/hketotokyo

香港特別行政区政府
ポータルサイト

www.gov.hk

政府広報局提供の
無料ニュースサービス

www.news.gov.hk

ブランド香港
Facebookページ

www.facebook.com/brandhk.isd

香港経済貿易代表部の
ホームページです!

www.hketoty.gov.hk

